

筆山

第22号 / 1997・1

土佐中・高同窓会 関東支部会報 編集人/藤宗 俊一(42回)

〒106 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 ☎03-3587-6200/FAX03-3587-6201



三根校長先生の墓参会の後で

ハイデルベルクを訪ねて

還暦記念に晩秋のドイツを訪ねることになって、戯曲『アルト・ハイデルベルク』(マイヤー・フェルスタ作・丸山匠訳)を読んだ。さる公園の皇太子と下宿屋の娘の淡い恋の物語。ヒロインのケーティが皇太子に献じた詩の一節。『遠い国よりはるばるとわがうるわしのネッカーの畔まで／お越しになられた御身にお捧げいたします／(略)』いつの日かお帰りになれる時／いついづまでもお忘れにならぬよう／このハイデルベルクに学ばれし幸せを……

ハイデルベルクは人口15万人のうち学生が3万人を数える学都、日本人留学生も50人いるとか。名門ハイデルベルク大はノーベル賞受章者が8名にのぼるといふ。市内を流れるネッカー川は豊かな水量をたたえている。今は紅葉で町が一層映える時とガイドさん。

ドイツ観光の目玉ともいふべき「ライン下り」や白鳥城「ノイシュヴァンシュタイン城」もいいが、青春の哀歓をほうふつとさせるハイデルベルクが一番印象的であった。人は遠慮を迎えるころ、それぞれの「ハイデルベルク」を訪ね、若き日の血をたぎらせるのも悪くない。新たなエネルギーがよみがえってくるに違いない。



明日に架ける橋

風薫る五月、代々木の杜の下真ん中「オリムピック記念青少年総合センター」で平成8年関東支部総会が開催された。

若い同窓がもつと参加しやすいようにと、時期と場所を一新して迎えた今年の総会は、目標の三百名には僅かに及ばなかったものの、二七〇名を越す同窓の参加を得て、近年にない盛り上がりを見せた。

田島征三氏(34回)

の記念講演では、世界各地の映画祭で高い評価を受けた、田島さん原作の『絵の中の僕の村』に描かれた、故郷高知の懐かしい風景が、ユーモア溢れる土佐弁で語られ、会場に入りきれない程の聴衆を、しばし遠い子供時代の夢の世界へと誘った。

後半のパーティでは「久振りやネヤ」、「いやー、あんた元気やった」といつもの和やかな歓談の風景が繰り広げられた。今年からご招待参加の60人以上

の新入大学生(と思う)も、すっかり会場の雰囲気にとけ込み、あちこちで先輩風に吹かれっぱなし。宴たけなわの中で行われた勝ち抜きジャンケン大会では、四〇〇個以上の百円玉争って舞台上での大バトルとなり、最後には元気いっぱい明治大学一年生の手に渡った。これでは、あわよくばテラ銭を巻き上げて同窓会館の積立金にと目論んでいた胴元も手が出せず、「カタギの衆にご迷惑をかけち

土佐中高同窓会会館基金

金八七四、七五六円

同窓会関東支部幹事長、溝淵真清氏(32回)が、本紙19号の中で高らかに謳い上げた『土佐中・高校同窓会会館』建設の夢は11月末日現在、金八七四、七五六円の基金という形で、小さな蓄をつけようとしています。

未だ遙かな道のりながら、機会ある毎に夢を語り、浄財

やあ……。とアキラメ顔。『奨学金』を手にしたアンフアンテリブル達は、意気揚々と杜を後にした。

静かなお酒と語らいの一時を楽しみにしてこられた先輩の中には、この熱気に些かむせ返ってしまった方もいらっしやうたようだが、まばゆいばかりのシャンデリアの明かりの中に、同窓会の『明日に架ける橋』を見た思いのした総会であった。

関東支部活動報告

●平成八年関東支部総会は、去る5月18日渋谷区代々木の国立青少年センターに、二百七十余名の同窓、来賓を集め

盛大に催された。(別掲参照)
●8月3日高知新阪急ホテルでの本部総会に、宮地支部長以下8名の役員、幹事が大量

を募り、その都度、熱い賛同を得て参りました。今後も絶えることなく、この運動を継続してゆきますので、ご賛同いただける方は、事務局まで御一報下さい。
又、東京相和銀行本店(普)0416767「土佐中高同窓会会館建設基金」への篤志もお待ちしております。

参加。関東支部の意気軒昂をアピールしました。

●9月1日母校の始業式に合わせ筆山22号第一回編集会議。12月発行に向けタツブリ余裕の発進。

●10月5日学年幹事会。「平成九年関東支部総会」の要項を決定。

日程 平成9年5月24日(土) 場所 国立青少年センター

来年以降、可能な限りこのパターンを固定化してゆく方針が採択された。

また、この幹事会において総会の企画、運営に関し、「責任担当学年制」という新基軸が打ち出された。特定の幹事、ボランティアに依存する従来の体制を打破し、三、四学年が毎年交替して総会を運営してゆこうというもので、その第1回となる今回は、西暦年度の末尾をとって37回生、47回生、57回生、67回生にうけもってもらったこととなった。これまでにない斬新で魅力溢れる総会が大いに期待されるところである。

母校だより

学校長 森田 幸雄
土佐路もすっかり秋の気配となりました。会員諸兄姉

には、ますますご健勝の御事とお喜び申し上げます。

さて二学期当初の伝統的行事である大運動会は、秋分の日、絶好の日和に恵まれ、秩序正しくしかも思いっ切り愉快に実施することが出来ました。これも先輩各位の熱烈なご声援の賜物であり、心から御礼申し上げます。名物のやぐらには、黄団による「男はつらいよ黒潮編」の巨大張りぼても登場、惜しくも実らなかった寅さんシリーズ高知ロケへの熱い思いが、感性豊かに表出され、観客の喝采を集めていました。

次に学校事故の残念な報告を申し上げます。去る8月13日、高槻市で練習試合中の高校サッカー部一年、北村光寿君が落雷の直撃で被災し、9月9日には高知赤十字病院に移送され、意識回復に向けて懸命療養中であります。不可抗力的な事故とは申せ、クラブ活動中の生徒が重大事故に遭遇したことは誠に無念であり申し訳なく思っています。今後、手厚いまた長期的な支援体制が必要となりますので、同窓先輩各位にも学校の支援活動にご理解を賜りご協力の程よろしくお願い申し上げます。

す。

次にこれも残念なご報告ですが、去る9月17日本校事務長町田孝一郎さんが現職のまま急逝されました。約五十年に亘り、事務職の要として、更には法人評議員として本校教育振興に尽くされた功績の大きさを思い、また文字通り公平無私のお人柄を偲び哀惜の念に堪えません。葬儀には、同窓会員多数のご参列を頂き有難うございました。皆様がたと共にご冥福をお祈りしたいと存じます。

さて、いよいよ充実、飛躍の学期後半に入ります。中高一丸となり、文武両道の伝統に恥じめ成果の達成に全力投球で立ち向う決意ですので、従来に変わらぬご声援を賜りますようお願い申し上げます。報告に代えさせていただきます。

本部だより

幹事長 岡内紀雄(34回)

1. 平成8年度総会開催

平成8年8月3日(土)午後3時より、高知新阪急ホテルにおいて二〇〇名余の参加を得て、総会、記念講演ならびに懇親会が盛大に開催されました。

総会では大久保浩二副幹事

高三生は卒業を控え、各人の進路に向かい全力投球している頃と思います。春には親元を離れ、ひとり都会で生活するに当ってこれからは親の目は届かなくなるので、羽を伸ばそうと考えている人も多いと思います。そこで一寸一言。

都会へ出ると今までは経験しなかった勧誘を受けることでしょう。例えば、「〇〇を購入しませんか。」「この地区で貴方が選ばれました。今なら格安です。〇〇クラブに入りますか。」「将来のため資格を取っておいたら役に立ちます。今なら簡単に取れますから入会しませんか。」等、突然最初は何の用件

とも言わずに電話が入ることがあるでしょう。その時に、「結構です。」「いいです。」「エエー。」「マァー。」という様な答え方をしますと、これは誘いに対する承諾になり、相手の思うつぼ

関東支部OBより 在校生並びにご父兄への老婆心

軽々誘いにのる勿れ

にはまることとなります。断る時は、はっきり「お断りします。」「興味がありませんので電話を切ります。」「という風に、強い口調ではっきり断りましょう。又、うかつにアンケートに答えたり街頭での署名もしない方がよいでしょう。

しつこく勧誘されてエエー、マァー、とか態度を曖昧にすると、相手につけこまれますので充分気をつけましょう。世の中、少し世知辛いなってきていますので、自分をガードしながら、都会生活を楽しまれることを祈ります。

最後にご父母の方へ子供さんの住所を教えて欲しいと問合せがある時も、よく相手を確認して下さい。リスト屋とおぼしき者が、親元から上手にTEL番号を聞き出し、それから子供さんの所へ勧誘のTELをする手口もありますので充分気をつけましょう。

(37回M.K.)

長(32回)のこの尽力によって香川支部が復活したことが報告され、支部長の土田哲也氏(32回)にご挨拶をいただきました。香川支部の今後のご発展をお祈りいたします。

記念講演は、29回生の泉谷良彦氏(三菱石油㈱社長)により「石油アラカルト」という演題で、エネルギー資源の現状と課題、原油採掘の仕組みと費用など、石油にまつわる様々な興味深いお話をさせていただきました。

懇親会は、松浦前校長、森田現校長をはじめ、高崎先生、竜尾先生他多数の先生方も出席され、野球部OBのスマーとで元氣一杯の司会進行のもと、和氣あいあいのうちに新旧同胞杯を交わし、応援歌を合唱してお開きとなりました。

2. 平成9年度総会

来年度の総会は、8月2日(土)高知新阪急ホテルにおいて開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

東海支部だより

緊張しました名古屋

事務局長 南穀一(37回)

プロ野球シーズンも終わり、平穏な平和な日々が続いています。しかし、9月末から10

月にかけて、名古屋は緊張しました。何かこう街中がビリビリ。テレビに映るドラゴンズ星野監督の死相、もし敗れでもしたら、彼はこのまま倒れてしまうのではないかと、そんな心配やら何やらで応援しているこっちの身がたまらんです。それも2週間位続くんですから。正直、敗れてホッとしたような、腰が抜けたような——ドラマティックな秋でした。

さてわが同窓生に変わりはありません。それぞれが一歳ずつ年をとりました。白髪や皺は増えましたが元氣です。そんな面々で5月に総会をやりました。

総勢40名と小世帯でありましたが、それだけに「おんしが、俺が……」の議論百出。「土佐高、如何にあるべきや？」について森本教頭、浅井

本部副会長、大久保本部副幹事を囲み、OBとしての歯がゆさをぶつけ、又関東支部副幹事の市川氏は挨拶の中で、思い切った改革内容を提案する等、熱気ムンムン。残念ながらタイムオーバーとなり、続きは二次会に迄延長。近年には忘年懇親会をやりま

す。又々「もがり」が集まることと思います。

関西支部だより

事務局 竹原 賜子(28回)

6月上旬なんぶう16号を発行。千五百名の支部会員に発送。昨年は止むを得ず休刊したため、今号は特に皆様に喜んでお読み頂いた様に思われる。

8月3日(土)の本部総会には新支部長 永野元玄、新幹事長 関口正彦と事務局竹原出席。

シニア会は13回の葛目先輩を囲み毎月一回囲碁の会を続けている。(於事務局)

なんぶう17号発行に向けて幹事長が事務局にて準備に入

る。(10月14日)
新年のパーティーは1月25日(土)心斎橋のホテル日航大阪に決定。

震災後の神戸、芦屋、西宮は建物の取り壊しが進み一段と空地が目立ち始めた。その中で朗報が一つ大阪・神戸間の大動脈である阪神高速神戸線が予定より二ヶ月早く9月23日に全面開通したこと、これで復興の速度も少し早まることと思われる。

り返しています。そこで県では競技力向上対策本部を組織し、高知国体で主力となるジュニア選手の強化に乗り出しました。その一環として中学生の強化指定選手二〇九人を発表しましたが、我等が土佐中からは、バスケットボールの福田一昂君、白山晃嗣君、剣道の川村篤嗣君、北添大輔君、加藤文典君の五人が選ばれました。先輩諸君、彼等の名前をしっかりと記憶して大いに声援を送って下さい。

母校の体育館わき、中学棟ぞいの大銀杏が黄葉し始めました。

高知新聞より

●土佐藩藩祖、山内一豊の銅像が高知城公園内に再建されました。「土佐にはハチキンの千代さんの像だけありやあええろう」とか「アシは長曾我部やき、山内の銅像はホッコリせんぜよ」とい

●二〇〇二年、高知で国体が行われるのをご存知ですか。ところが高知県は毎年の国体では常にビリ争いの成績を繰

広島支部だより

事務局長 小島一洋(31回)

関東支部の皆さんお変わりございませんか。

広島支部会員は、96年国体の真っ直中の環境にどっぷり漬っています。母校同窓生の国体関係者も数多く来広されている模様です。こんどのNHK大河ドラマの「毛利元就」のロケがすでに宮島で始まりまし

多い広島です。

広島支部会員にとって、心のオアシスが見つかりました。

小料理「梅太郎」(中区堺町2丁目5の17番地082-283-0656路面電車停留所「小網町」から北へ2分)がそれです。

女将は、旧満州長春市から引揚げて来られた、お料理のうまい藤井和子さんです。季節季節の旬の瀬戸内海沿岸の材料を生かしたお袋の味。時に、鯉のたたきも。しかし、なんとと言っても、安芸市の地焼酎「龍馬」が棚にずらりと

キープされている光景に接すると同窓生は堪らなくなる。はちきんといつそうスピリットを120%発散させても、この店では大歓迎を受ける。それに、青春、わかき、血潮はたぎる。われらが友……女将も大の土佐中・高同窓会のファン。この8/31広島支部夏の集い（於宮島）にビールケースを寄附して下さるなどその惚れ込みようは尋常

籠尾良雄先生

野球王国の復活をめざして

私はこの三月、生徒、教師として39年間過ごさせてもらった土佐に悲喜こもごもの想いを胸に別れを告げさせてもらいました。

私たち27回生は終戦の翌年昭和21年、全て廃虚と化してしまつた旧制最後の土佐中学に入学しました。入試は下知の城商、入学式を市商ですませ、一学期の授業は山田小に汽車で通って受けました。2学期の始まる前に日章の航空隊の兵舎に使っていた古材をもらい受けてやつと仮校舎ができました。この折越知小出身の同級の武内正忠君のお兄さん（当時中三）が銀杏の小

ではない。梅太郎一皆さんご存知の龍馬の変名を屋号にするくらい龍馬教の大信者。龍馬のどことが好きではなく全部が好きと言いつつ切るところが、同窓生には堪らない。因に、この心のオアシス。26回生天田充先輩の巣だった処。皆さん、来年1月18日（土）広島支部新年総会に、是非お出掛け下さい。

ばえを持つてきて仮校舎落成を記念して校舎のわきに植樹しました。小ばえは戦後50年の土佐の隆盛を見守りながら大銀杏に成長しました。それだけに感慨深いものがあります。

私は四月から亡兄の創業した（株）カゴオに籍を置き、7月に発足した高知県小中学校野球連絡協議会のお世話をさせてもらっています。県学野連監督会が六月、小中学の野球関係者に呼びかけ、「野球王国の復活を期して」をテーマにシンポジウムを開き、私はその基調講演を依頼されました。

その中で私は先ず現状を訴えました。昭和61年以降の甲子園で県勢のベスト8以上進出はわずか2回。それ以前に比べて戦績はガタ落ちです。この不振に歩調を合わせるように野球部に入る生徒も漸次減少してきました。県教委の部員数調査でも先ずサッカーに抜かれ、ここ数年はバスケットにも抜かれ3位。小中学でもほぼ同じ傾向で、しかも運動能力の高い子供の大部分が他の競技に流れている。

私はこの現状を踏まえ、①少年たちの現状への関心を高め、一人でも多く野球に親しんでもらい底辺を拡大する。②こうした少年たちに正しい野球を教え故障をおこさせず大きく伸ばす。③故障をおこさないための予防、おこした場合に速やかに適正な治療が受けられる態勢を作る。私はこの三つを実現するためには小中学の野球関係者が一体となつて努力すべきであると結びました。

このシンポジウムがきっかけとなつて小中学の各野球団体の会長、理事長らが参加して高知県小中学野球連絡協議会を結成することになり、私を会長に7月に発足しました。

た。シンボと会の発足には、マスコミ各社の大きな協力がありました。マスコミや人々の期待してくれているうちに、出来ることから始めようと、先ず正しい野球を広めるための技術指導委員の編成をしました。人物、球歴、指導力等を勘案、考えられる最高のスタッフを整い、早速小中学の指導者を対象とした講習会を開きました。

また医療の面も高知医大整形外科のご協力で山本誠司教授以下4人の先生方、新高陵病院の大谷舜三院長ら6人に医療委員になつていただき、各地に協力病院もできました。12月には小中学の指導者を集め、研修会を開きます。

肝心の野球少年を増やす点については、シーズンオフに十分論議を尽くし、具体策を練つて出来るだけ早く実行に移すつもりです。

大へんなことを引き受けてしまいました。これまで長らくお世話になつてきた県野球界への恩返しと思い、小中学野球関係者のご協力、マスコミのご支援、野球人やファンの方々のお助けをいただき頑張ります。

龍馬も、鯨も待っている
ふるさと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

高知銀行

東京支店 中央区八重洲2-6-21 (電) 03-3273-3061



還暦記念の文集が本当に出来たのです。今の気持ちを何とか表現すればよいのか……。

思い切って「おさそい」をすることになった要因はいくつかありました。その1は、一昨年（94年秋）、足を骨折して入院中に還暦の誕生日を迎えたことです。そのときの同級生の思いやりに感謝する気持ちが記念文集発刊のきっかけになったわけで、私の好きな「人間万事塞翁が馬」という言葉を実感することも出来ました。

その2は、翌95年に向陽会（関東在住の28回生の同窓会）幹事の順番が回ってきて、『いいだしっぺ』になりやすかったこと。それでもなお躊躇する気持ちがあって、「夢」として忘れようと決心した直後に、その3として2年後輩のクラス文集『一つの流れ』第11集を送っていただいたこと。その4はあまりお金がからずに出てくる誤解したこと。その5は終戦のとき小学校5年生で、戦中、戦後の文字どおり「激動の時代」を瑞々しい感受性で受けとめ、体験していることです。いつも空腹で、明日をもしれない辛い時代ではあっても、美しく

爽やかな、素晴らしい精神生活を見聞して学び、成長しました。子供達や後輩に、人の幸せのために生きた先輩の方々の高潔な人間性と勇気を語り伝える義務があるのではないかと……。その6はほかの幹事の方々が、大変だと覚悟をしながら、賛成してくださったことです。

卒業以来何十年ぶりの突然のお願いに慈愛あふれる玉稿をお寄せくださった恩師の先生方に厚くお礼申しあげます。先生方も喜寿、古希、金婚式のお祝いなのです。本当におめでとうございます。また素晴らしい原稿を書いてくださり、資金カンパにも快く応じてくださった仲間にかから感謝いたします。労を惜しまずワープロなどの協力をしてくださった方がとうございしました。今回ご都合で参加いただけなかった方も第2集、第3集には是非書いていただきます。心待ちにしております。限られた予算の中で、無理を聞いていただいた出版社の方にも厚くお礼申しあげます。一編集後記より――

28回生の向陽会幹事だった公文俊平さんに「還暦記念の文集をだしたいのですが……」と電話すると、「いいですねえ、やりましょう。費用も……すると只みために安く出来ます」と頼もしいお返事で、この……の部分がよくわからないまま、まず力ゴースタリしまし

私でも出来たわけません。か行けないか考えた今思

も、いの28回と好意の感し

突然の敏感にあたた

抵抗を

も原

てくださり、勇気をふるってお願いした資金カンパにも快く協力してくださいました仲間感謝の気持ちでいっぱいです。自分個人の事でしたら、資金

還暦記念誌 28回 川村 愿

カンパなどなかなか頼めるものではないかもしれませんが、私には大儀名分がありました。それは編集後記のその5です。

第1回の私の「おさそい」

の分は平成7年9月の向陽会案内に杉本さんに同封していただきました。往復葉書で賛否を問うと好意的なお返事が沢山かえってきました。平成7年11月の向陽会は『くろしお』（当時は名前はついていませんでしたが）の『発刊決起大会』のような感じになりました。その時に既に原稿を送ってくださったのが高知の伊野部さん。その日も高知からはるばる出席してくださいました。西岡さんも病後の体で、高知からかけつけてくださいました。原稿を2通も持参してくださったのが松永さんでした。

そしてわたくしが『清水の舞台から飛びおりる』思いで「資金カンパを……」ときりだす前に既に沢山のカンパを用意してきてくださった方々。そして即座にカンパのお願いに応じてくださった方々。原稿が集まるにつれ、1通でも原稿をいただいたらそれを無駄には出来ない。一人でカンパをいただいたら1円

たりとも無駄には出来ないという思いで、発刊までこぎつけたと思います。私あてに送られてくる原稿は万々を考えるとすべてコピーし広田さんに送りました。そしてワープロ化をお願いのために郵送しました。

今手元には刊行に対する感動と喜びのお礼状が沢山あります。原稿を寄せてくださったある女性は「生まれてはじめて私の文が活字になりました」と喜んでくださいました。友達のお母様や私の母なども「年のせい、一度読んでもすぐ忘れるので、何回読んでも、皆さんそれぞれの生きざまが、素直に書けていて面白く、楽しんでます」とのことです。残部は少ないので（350部刷っただけなので）ご希望がたくさんいただければ、あとしばらくは増刷できるようにお願いしてあるそうです。表紙カバーは二科展入選の28回生藤田玲子さんの素敵な写真です。82歳の鎮西忠行先生のデッサン、懐かしい恩師の先生がたの玉稿の数々と楽しい文集です。

問い合わせ先

03-320-5137（自宅）

03-320-4745（勤務先）

クラス誌『うきぐも』

—十六号の軌跡—

30回 浅井 伴泰

今夏発行の30回生Oホーム誌『うきぐも』16号は恩師公文先生と級友二人の追悼号になってしまった。還暦を全員でクリアしようを合い言葉に励ましあっていたが、目前で叶わぬ夢になった。

創刊は昭和28年夏だから、あの夏の甲子園準優勝とほぼ同じ時期だ。当時高校二年生で、ぼつぼつ受験勉強を始めなければならぬ時に『なぜ』と思うが、高一の新学期早々中学からの担任だった公文先生との突然の別れがあり、

クラス全体にもやもやした空気が漂っていたことと、受験勉強に徹しきれない気持ちの現れだったのではなかったか。梶田君の編集後記(昭和28年7月1日)「同じ心の人種集まり来て各々諸々の心がきをかきあつめ、文集一巻発せんとしたのは6月23日。(中略)ふわりふわり定めなく漂い流れる白雲のごとき思想を内蔵したこの文集の一層の発展をのぞみ後記にかえる」

2号、3号は同じ年の9月、10月と立てつづけに発行。よ

ほど受験勉強に身が入らなかったよ

うだ。3号までは手書きのガリ版刷りで定価30円。随筆、創作、評論、川柳なんでもあり。一年余りおいて卒業記念4号は昭和30年2月だから受験直前だ。中種・帯屋町の商店に広告を出してもらい謄写版の120頁の大作になったが、編集人と発行人が共に東大に合格したのだから、今では信じられない話だろう。大嶋校長以下全先生と級友全員の人物戯評が面白いが紙面の都合で紹介出来ないのは残念だ。

卒業からの七年間で9号まで発行。7号の発行場所は高知刑務所になっていたが級友が入ったわけではない。話題の中心は酒・麻雀・女(男)と変わったがそこで発行はパタッと止まった。就職・仕事・結婚・育児で忙しく余裕のなかった時期だ。

12年間のブランクの後10号が出たのは卒業20周年の昭和50年。返信のあった級友の手書きの近況報告をコピーしたB4 13枚の簡易版だったが、この時の武中君以下の高知組

の熱意が11号以降の充実につながり、以後数年おきに出して16号まできた。全員参加をねがって社会人になってからはアンケートを採り入れたが「恋人は？」から「配偶者の出身高校」「子供の数」「ゴルフ」「カラオケ愛唱歌」などを挙げて、16号では「健康法」「孫の数」「定年予定日と感想」となったのも時の流れだ。高知や東京で時々クラス会をやったり酒の肴に話した級友の近況報告を鳥取在住の千原君が絶妙なタッチで味付けし仕上げた「爆笑座談会」は下ネタもあり好評だ。

学生時代は広告取りなどして苦労したが、最近では1万円の会費入金率が90%を超え、又同窓諸氏のご協力もあり健全財政だ。よう続きましたねえと云われるが理由は何か。大きいのは公文先生との離別があったため団結心が強いこと、とび抜けてえらくなった奴も居らず仲が良くみんな大事にしように云う気持ちがあることだろう。上村君(高知新論説委員長)、中城君(公文出版)、生木君(リーダースダイジェスト)達の編集プロの存在、久武君の

表紙の絵、元級長の大町君の統率力、西内君(オリコ)の会費徴収力、杉本君(NTT)の通信力、小生の出張力?などそれぞれの役割分担が比較的うまくいっていることも挙げられる。この点は日本一になったオリックスに似ている。チョー几帳面な石津君の持っていた創刊号からのバックナンバーの復刻保存版も、酒席の何度かの議論の末、数年前につくった。この先どこまで続くか判らないが、『寅さん』のレベルまでは無理にしても『成人式』は豪華にかつにぎやかにやりたいと思っている。



いつまでも心に残るおつき合い

島崎和歌子



営業店舗

- 高知県下.....76店
- 徳島県下.....27店
- 香川県下.....9店
- 愛媛県下.....7店
- 本州地区.....11店

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市はりまや町1-1-1 ☎(0985)29-2111

インターネットの 41回生同窓会のページ

株式会社 マイクロネット 代表取締役 山崎 郁太郎 (41回)



インターネット上に41回生のホームページをほとんど洒落で作ってみた。一昨年の正月にこれまたあそびで作った会社のホームページの片隅にこの41回生同窓会のホームページがある。

今年5月に41回生の30周年記念『大』同窓会が夜須町の

観光ホテルで、事務局もびっくりの140人余を集めて、ほとんどホテル貸し切り状態で行われたが、たまたま持参したデジタルカメラを使って、ハゲのおんちゃんから、年増のおばさんのスナップを撮りまくったのがきっかけだ。うちの会社のホームページ

は主に会社の宣伝や製品紹介、人材募集等の宣伝広告活動に利用している。このホームページを開発するにはサーバーと呼ばれる専用のコンピュータとインターネットに接続するための専用電話回線が必要だが、それらはニューヨークのなんとか言う町にあって、レンタルで借りている。無論、そのコンピュータはみたこともないが、これまたインターネットを通じて日本から自由に操作できるようになっている。夜中の11時過ぎに自宅のパソコンから写真を送ったり、文章を変更する等の更新を行っている。

41回生のホームページには、30周年記念のスナップ写真の他、プロの写真屋に撮ってもらったクラス毎の記念写真も大きく載せている。この写真は幹事の大黒君にお願いして写真屋にPhotocDにしてもらった。スナップも含めて写真は60枚ほど載せている。140人もの同級生が日本各地から駆けつけたとはいえ、同期生360人の残りの同級生は、仕事や家庭の都合で参加できなかった。何人かは海外勤務で

ある。そうした当日参加できなかった同級生の数人から、このホームページを見たこと、これまたインターネットの電子メールでたよりがあった。

長崎医大の吉本君やニューヨークに赴任中の内海君などである。工業技術院の研究所にいる筒井君が精力的にこのホームページを紹介してくれて、都合10人ほどから電子メールをもらった。なかにはコンピュータの操作が不慣れな部長で、部下に操作してもらって、「見たヨ」と電話してくれたものも居た。こうして電子メールをくれた人たちは当然自分の電子メールアドレスを持っているので、このアドレスをそれぞれに紹介したところ、お互いに電子メールでやりとりをやっているようだ。最近では、高知の潮江東小学校校長の谷脇君のメールがきっかけで、内海君や川崎重工の杉本君が日本とアメリカの教育や日本の官僚制度についてのメールを交換している。41回生のホームページはその後、同級生の計報やサッカー部OB会のお知らせ、それに日比君の慶応大学医学部教授就任パーティの様子等を載せている。

40回生で通産省にお勤めの岡林さんからもこのホームページについての電子メールをいただいた。岡林さんは早い時期から個人的にインターネットに取り組んでおられるかと、個人のホームページで高知関連の情報を提供しておられ、土佐高関係では放送部OBのページを紹介している。

最近インターネットに同窓会関係のホームページが増えている。例えば高松高校の同窓会のページなどは非常によくできている。残念ながら41回生同窓会のページはデザイン的にも、また内容的にもかなり拙作であると言わざるを得ない。

先日関東支部の幹事会でインターネットでの同窓会ホームページのことを紹介させていただいたが、例えばイラストレータである33回生佐々木さんなどの挿し絵を入れたり、若い方々の感性の協力がいただければ、他校に負けないページができるのではないかと

思う。

41回生同窓会ホームページ
URL: <http://www.micronet-jp.com/tosato/tosako/tosako.htm>

設立にまつわる秘話

70回 野町 啓

忘れもしない(といいながら手帳を見ているが)7月9日火曜日の晩、宮地支部長の呼びかけで女性ばかりの「フランス料理を食べる会」があった。

参加者は支部長を含めて7人。ともすれば単発企画で終わったかもしれないこの会が「またやろう。」という雰囲気になったきっかけは、宮地支部長が「用事があるから。」と退席したことに始まった。人生経験の豊富なお姉さん方は、女ばかりになったのをいいことに、かわいい後輩(私)の大失態話を肴に大いに語り、大いに飲んでいた。実に閉店間際まで語り続け、その日の最後の客となっていた。

女だけになった瞬間、その日死にそうに暗かった私がやり玉に上がった。特にさとしん(西森さん57回)は、「何があったか言ってみなさい。」とか聞いて「ふられたーっ?全然大したことないよー。わはは。(ぐび)」「(ちよつと待て。こっちは深刻だ。)」である。ゆりさん(金沢さん55回)にも、まず「かわいい

ーっ!」と言われたし。

しかしそこからはほんとに面白かった。「みんないろんなつらい経験をしてるんだよ。それを乗り越えることで成長していけるんだよ。」とお姉さま方はいろんな苦勞話を聞かせてくれた。ちよー本音トクになっていた。

ほんとその日はいい話が聞けた。普段は年上の人の意見を聞ける機会なんてなかなかない。さとしんも言っていたが、「同じ年頃の人に相談してもさー、みんな同じ様に悩んでる時期だから、一緒に悩んじゃったりしてなかなか解決策なんて出てこないでしよう?」そういう意味でこの会はすごい貴重だった。

第二回会合に行ってみると知らないうちに人数が増えていた。でもこういう集まりがもつと広まるのであれば、大歓迎です。大学生のみなさんサークルの飲み会でイッキしてる暇があったら同窓会にも顔を出してみてもどうでしょうか。

…そしてハチキン会
55回 金澤由里

(第一回)同窓会関東支部女性の集まりは、おかげさま

で盛会裡に終り、出席者の方々からも、「目からうろこがおちる想い。どうして、長い同窓会の歴史にこのような会がなかったんだろう。」とか、「写真に入りきれないくらいたくさん集まるようになる」と



いいね。」というような感想をいただきました。

10月22日(火)夕暮れせまる代々木の森、新宿の夜景を見下ろすレストランに22人の美女(28回〜71回)と今回のナイト(宮地貫一支部長)が集まり、和やかに本格的フラ

美女の会、千代女の会、乙女姉の会

ンス料理のコースは始まりました。意外とシャイな支部長のこと、いくらなんでも1対22は居心地悪かろうと、密かに心配していた私は、少しして支部長が隣の71回生の学生達と談笑しているのを見て、その必要はなかったと胸を撫で下ろしたものでした。そしてナイトは挨拶の後、この会が同窓会のなかでも極めて格調高くなることを願って、博物館のチケットを全員にプレゼントしてくれました。

そうです、極めて格調高くなければならぬのです。それにつけては、頭の痛い問題があります。会のネーミングです。「ハチキン会」がインパクトがあつて覚えやすいのですが、ハチキンの語源は大変エッチであり反対!と云う先輩もあり、いまいちです。私は「働き者で、元気」というイメージしかないんですけど、どうか、皆様、ステキな名前を見つけて下さい。

「ソニーがソニーでなかったら、世界のソニーはなかった。猿岩石が猿岩石でなかったら、ベストセラーにならなかった。

「かもしれない。フランス語でも、イタリア語でも、ロシア語でもいいですから、アイディアがあれば事務局までお願いします。

閑話休題、アルコールも入ったところで、それぞれがショートスピーチをしました。自己紹介から自分のアピールまで、事前通知もしていないのに放つといつまでもしゃべるぞーっという感じですが。老人介護からプリントクラブまで、話題は多岐に渡ります。総会などではあまりお話しできない方のこともいろいろ知ることができ、充実した会食でした。最後にナイトを開んで記念写真を撮り、桜の頃の再会を誓ってお開きになりました。

人は人によって磨かれ、人は人の優しい言葉に安らぐ。多くの女性同窓生にとって、そしてこれからのナイトにとって、この集まりがあなたを輝かせるひとときであつて欲しいと祈っています。

最後に、今回のナイトを募集致します。自薦他薦OKです。何人でもOKです。宜しくお願いいたします。美女が美しさに磨きをかけてお待ちしております。

作曲・指揮 平井 康三郎(5回生)
詩と音楽の会々長・ジャズラック評議員

チェロ・作曲 平井 丈一郎
カルザス高第・国連シンフォニー顧問

ピアノ・作曲 平井 丈二郎
東京芸術大学教授・ジュリアード音楽芸術博士

三菱電機株式会社

相談役

進藤 貞和
(3回生)

〒100 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

月島機械株式会社

監査役 吉澤 信一
(16回生)

〒104 東京都中央区佃2-17-15
TEL 03-5560-6512

アポロン独和辞典 刊行

株式会社 同 学 社

取締役社長 近藤 久寿治
(6回生)

東京都文京区水道1-10-7
電話 (03) 3816-7011 (〒112)

圧縮空気除湿装置
吸着精製装置

AUTO-PUREX



丸谷化工機株式会社

代表取締役社長 山本 高敬 (25回生)

〒100 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル

竹村法律事務所

弁護士 竹村 照雄
(20回生)

事務所 〒102 東京都千代田区平河町1-4-3 平河町伏見ビル2F
TEL 03-3237-3511(代)
FAX 03-3237-3365
自宅 〒206 東京都多摩市桜ヶ丘2-26-4
TEL 0423-76-0776

三菱石油株式会社

社長 泉谷 良彦
(29回生)

〒108 東京都港区港南1丁目6番41号
電話 東京 (03) 3472-7502 番

壺坂電機株式会社

代表取締役 壺坂 博文
艶子(28回生)

〒192 東京都八王子市石川町1683-1
☎ (0426) 46-1127(代) FAX 46-1834

東京エアゾル化学株式会社

代表取締役社長

浅井 伴 泰 (30回生)

本社 東京都豊島区南池袋1-25-9
今井ビル8階 (〒171)
電話 03-3984-1401 FAX 03-3984-1713
営業所 大阪／ 工場＝埼玉・岐阜



くもん出版

株式会社 くもん出版

中 城 正 堯 (30回生)

〒102 東京都千代田区富士見1-12-21 BR九段1
TEL (03) 3239-1427(直)
FAX (03) 3234-4018

メガネ、コンタクト、補聴器のことなら
何でもご相談下さい。
同窓生は15%offとさせていただきます

全国65店舗 **富士メガネ** 大手町店

取締役 兼 東京営業本部長 窪田秀忠 (38回生)

千代田区大手町1-6-1 大手町ビル 1F中央
TEL 03-3214-4751 日曜日 (休み) 平日 10:00~19:00
土曜 10:00~18:00

ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社
ロエベ ジャパン株式会社

代表取締役社長 秦 郷次郎 (31回生)

〒107 東京都港区南青山1-1-1 青山ツイン
電話 (03) 3478-3694

有限会社 和 久
橋梁の計画・設計

小松三男 (41回生)

〒236 横浜市金沢区釜利谷南2-24-4
TEL 045-782-1008
FAX 045-782-9145

株式会社日本テクナート
(株)日本アステック

代表取締役 小島三郎 (40回生)

取締役営業部長 門田健一 (43回生)

監査役 小島修子 (43回生)

本部 〒168 杉並区和泉4-42-32
TEL 03(3313) 7251 代表



株式会社 トウインズ・カンパニー

代表取締役 西森さと (57回生)

出席御祝、結婚御祝等に
華やかなラッピングでギフトをお届け致します。
お気軽にお問い合わせ下さい。

勤務先 〒107 東京都港区青山1-2-3 青山ビル2F
☎03-3408-6975
自宅 〒140 東京都品川区南品川2-8-18-112
☎03-5479-4682



住まいの情報センター

ミツフ ホーム サービス

代表取締役 中屋隆彦 (41回生)

〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷2-13-1 平沼ビル・幡ヶ谷北口駅前
TEL (03) 3320-0320 FAX (03) 3378-7097

展覧会・催物

●51回 阿部 知曉

『世界中のゴリラに会いたくて、描きたくて』あべちさと
10月9日・21日、松屋銀座・
遊びのギャラリーにて。

出版レーダー

●40回 塩田 潮

『一龍の歯車』

連立政権・一〇〇〇日の攻防
KKベストセラーズ一六〇〇円

●51回 坂東 眞砂子

『山姥』(やまはは)

新潮社二〇〇〇円

風のたより

余生を豊かに生涯学習

27回 安岡 毅

六十歳定年で好きな事を
する予定でしたが、やりかけた
仕事があり、一年延長してリ
タイア後二年余り、私なりに
充実した毎日を送っています。

先ず日課として近所の図書
館で新聞各紙に目を通し、月
に何回かは立川の図書館に出
向き「高知」をまとめて読み
ますので、高知の情報は大体
わかちゆうぜよ。

昨今の少子化による生き残
り作戦の一つかもしれません

が、最近大学の公開講座が多
く好都合です。主に地元の津
田塾、国分寺の東経大、武蔵
境の亜大へ出かけて受講しま
すが、若い学生と共に大分ひ
ねたオンラインが政治、経済、
法律、歴史、文学等の勉強を
し直すのも楽しいものです。
私は特に「天皇の戦争責任」
について興味があり、講師に
質問して意見を聞くのが参考
になります。沖縄戦にも関心
があり、ひめゆり部隊の生き
残り講師による講演では、「
何の法的根拠もなしに動員さ
れ負け戦になると解散なんて、
実に無責任な事をされて何と
も思わなかったか」と質問し
たところ「当時は軍に対して
何も感じなかった」との回答
でしたが、時代の違いを痛感
しました。
次に市立の公民館で市民講
座がありますが内容は大学の
公開講座と似たようなもので、
講師も一橋大とか中大等、主
に多摩地区の大学の先生や各
界からの出講者で占められて
います。唯この講座で感心す
るのは、私のような年金生活
者以外に老若の主婦が多いこ
とです。彼女達との共学で幅
広いジャンルでの頭のリフレ
ッシュが出来ます。一例とし



浜松医大の
大原健士郎教
授が、母校土
佐中の同窓だ
と知ったのは、

大分前のことになる。

大原さんが夫人を亡くされるまでの心洗われるご夫婦の交情を描いたドラマをテレビで見たらどうだったと思う。

同窓と云っても、私より十五歳ほど若く、同じ校庭に同時に立った訳ではないが、それでも、同じ釜の飯を食った仲間意識、とても云うか、そんな身近な親しみを覚えた。

大原さんの書かれるエッセイには、読むものの心を解きほぐすような優しい肌触りがあつて、私自身エッセイの真似ごとを書く者には、その意味でも教わるころが多い。

その大原さんが八月末、NHKの「健康スペシャル」の番組で、「ストレスとうまくつき合う方法」というテーマで話をされた。

その中で、これは恩師から学んだ詞だ、と前置きをして、「外相整えば内相自ずから熱す。」という句を引用された。ひとは暗い顔をしていては、病気はよくならない。明るく生きることだ、の意味と私は

受取った。

これを聞いた時、私の脳裏にふと遠い昔の記憶が蘇ってきた。

昭和十四、五年のころ、大学の文化祭で、来賓の高垣寅次郎教授が、「ジェイムス・ランゲの説」と題して講演されたことがあつた。

要は、人間はニコニコしていれば自然に円満な人格になる、という内容で、これは正に大原さんの云う「外相整えば」の考え方とピッタリ重なり合うのではないか。

昔、大学で学んだ学問のことなど、不埒にも忘れ果てたと云うのに、この高垣教授の「ジェイムス・ランゲの説」のことは、なぜか胸の奥にこびりついて残っていたのである。

大原さんのスピーチから、思いがけなく呼びさまされた過去への記憶の糸は更にほぐれて、大学時代の青春の日々、果ては旧友とそぞろ歩いた学園の松籟のざわめきにまで及んでいった。

もひとつ、大原さんの話されたことで、昔、徒然草でも兼好法師が同じことを云っている。つまり信心ところはななくとも、手を合わせていれば

佛心は自ずから生れる、と云うのだ。

とすれば、医学、人生観、宗教、と人それぞれの立場で表現の形容は異なっている。人間の考えることは、古今東西、所詮同じところに落ち着くものか、と悟らされた気もする。

徒然草が、大原さんは更に私に想い出をくれる。土佐中でこの古文を習ったのは、確か樋口先生。余り笑わない近寄り難いひとで、

古文の解釈では、省略箇所をキチンと埋めて完ペキに文意を追求する。学期試験の時の答案用紙のガリ版のインクの臭いまでが懐かしい。

「ストレスとうまくつき合う方法」の話の中で、大原さんは、大学のころ、更に中学のころにまで、私の想いを誘ってくれ、

そのことだけでも、私のストレスを休めさせてくれる、思わぬ効用を貰ったことになる。

外相整えば……

—大原健士郎さんのこと— 10回 立仙浩一

泣き虫
怒り虫

て障害児を持つ母親の強く明るく生きる体験談を聞いた時には感動しました。

勉強ばかりでもだれるき、趣味の学習もせないかんぜよ、私の場合講座のない平日は家庭菜園で土と親しみ、土日は府中の競馬場で馬とデートしています。やしべるわけじゃないけれど、高知の競馬はしように面白くないがちゃき。正直な野菜と、また気まぐれなサラブレッドと対話している時が何もかも忘れてストレス解消には最高の空間です。家族にも「俺が講座へ行かなくなり、又畑や競馬場でウロウロしなくなったら、おしまいだからな」と言っています。その時期が来たら静かに自然に枯れたいと願っています。

それが高齢化社会を迎える現状の健保や年金の財政実態からして、せめてもの若い者に対する配慮と考えていますが、如何でしょう。

母校及び関東支部の益々の発展を祈ります。

編集後記

■下車する際、両脇を支えながらよろけて二度ぶつかってたきた男性。足が不自由で気の毒に思いながら改札口につき

て愕然とした。バッグが開いて財布がない。ホームに駆け戻ると先程の男性が二本足ですくつと立っている。「すられた。」と睨んでいると物陰から「誰のかな」と財布を掲げて出てきた別の男。ひったくって取り戻した私に「中身大丈夫よ」と片言の日本語。ギャグ漫画に出演した気分だった。(酒呑童女)

■足の裏から「9月には帰る」と前編集長殿。確かにお帰りににはなされたが、東京を素通りして水島へ。大政奉還を夢見ていた相手が消えて、またしても空手形。その上、厚生事務次官の騒ぎの影響で今回も遅れてしまいました。本当に申し訳ありません。

水島からでは「足の裏から」ではなくて「臍の下から」。筆者の品位とあまりにもかける(一致する?)タイトルではと急遽連載中止。代わって「泣き虫、弱虫、怒り虫」氏にお願いすることになりました。乞うご期待下さい。

尚、最後になりましたが、前号の公文先生ご逝去の文中、社葬は9月23日の誤りです。心よりお詫び申し上げますとともに、改めて公文先生のご冥福をお祈り致します。(F)